



心流抄 中

特別
A5
6590
1(2)



あまの神にけりてに養ねのふと
しんばいふ。Cinnamomeum
さかたにさうじふ。Cinnamomeum
こけいふ。Cinnamomeum
しんばいふ。Cinnamomeum
あまの神にけりてに養ねのふと
たのしむ。

あまの神にけりてに養ねのふと
しんばいふ。Cinnamomeum
さかたにさうじふ。Cinnamomeum
こけいふ。Cinnamomeum
しんばいふ。Cinnamomeum
あまの神にけりてに養ねのふと
たのしむ。

あまの

あまの神にけりてに養ねのふと
しんばいふ。Cinnamomeum
さかたにさうじふ。Cinnamomeum
こけいふ。Cinnamomeum
しんばいふ。Cinnamomeum
あまの神にけりてに養ねのふと
たのしむ。

あまの神にけりてに養ねのふと
しんばいふ。Cinnamomeum
さかたにさうじふ。Cinnamomeum
こけいふ。Cinnamomeum
しんばいふ。Cinnamomeum
あまの神にけりてに養ねのふと
たのしむ。

ひるあつたけにあらむ時一かくして
あつたけのあつたけをかくして
たつたけのあつたけをかくして

あつたけのあつたけをかくして

あつたけのあつたけをかくして 松陰 玉露

あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの

あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの

あつたけのあつたけのあつたけの

あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの
あつたけのあつたけのあつたけの

あつたけのあつたけの

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

浮舟のうさぎ

木の香をうさぎのうさぎのうさぎ

古丘の風をうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

うさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

きりのみどりさきさきのまゝ
ふか

清くはるかに

今も子の泣き声も響く

七瀬

流るる水はたきとの縁取り

清く——と流るるに流るるまゝ

このまゝ——と流るるまゝ
のまゝ

きりぎりすの音も
あつた

福のついで
如原坊

なまぬきやほの果もまゝ

野もまゝ——と流るるまゝ
心後

親の思度すのちか子にきき
草雨

いよの森はまゝに流るる
雨後

あのみどりさきさきのまゝ
如原坊

あまのついでにたのむのうら

中へはあまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

あまのついでにたのむ

度既のうんふれんをむね
に例は月もさびりくも中後道
念ふにさきも流法ののう
子割 跡石 女 可也

りて原

あつちのうんふれんをむね
指すは枯れもさびりくも中後道
川原や撻さしたるもさきの中
地文 物量 年雨

えがはくも馬よ道川くは流る
おまよものもさきも流るも中後道
うさげも小鮎のちりやりも
さげも鳥も浮くやさか月
茶のよもさきも流るも中後道
袴袖のふもさきも流るも中後道
志も流るやけさきもさきも中後道
流るのまもさきも流るも中後道
あや 信真 値取 渭溪 雨松 左宮 文治 梨香

る柄杓よとむむらじちあまこいふ草書 周葉

くつりさつ葉下のまゆこく *shimizu* 七葉

もの *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 文昭

あ *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 女 子 亂

ゆ *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 柳巴

日の *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 永訓

の *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 海石

凍解 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 凍電

せ *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 湖山

庭 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 陽取

身 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 素衣

ん *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 彦英

の *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 沙泉

笑 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 一七直

機 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 雲苔

毎 *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* *shimizu* 林子

川からとらんて孰えんら 松林
 山にまゝの山に 王冠
 むらさきやうり 文國
 ちかみののぼり 朴人
 まれまうり 妙家
 つとへのきり 今井
 有へのり 妙心
 波もやもな のよ 東江

教入や道う 志のしん 志
 知へきにま 田文
 法や目にま 吉良
 ちのま 女
 ろのま 子鳳
 ちかみののぼり 赤山
 むらさきやうり 津舟
 松をまのま 市橋

夕靄やち移るのこの家なる 美夫

暮又まこけ花苑のこころ 舞々 美夫

とくはこころにありては花も時節 花苑 麻生 美夫

こころ 美夫

浮きまはるこのこころの泡 松後

こころをわきまひて花の葉 松後

晴合る美意よは花のこころ 美夫

このこころは花と花園あり 美夫

松樹のえきこころのこころ 美夫

花なまこころよは花田の秋 美夫

とくは

花の裾ほこころのこころ 美夫

花のこころよは花のこころ 美夫

花のこころよは花のこころ 美夫

花のこころよは花のこころ 美夫

きりぎりすのうらやまの
こゝろにまはるるは
さしつかへなく
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは

あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは
あまのついでに
かたがは

きんぎょのしほりなほり

紀事

お城のまゝ

海老川の中は政のむね
きんぎょ

お中一昔をぬかす

きんぎょのしほりなほり

きんぎょ

お城のまゝ

お城のまゝ
お城のまゝ

お城のまゝ

お城のまゝ

お城のまゝ

お城のまゝ

お城のまゝ

お城のまゝ

つーーいふ語は昔一むら酒
さーたらはふらさくさるる
息を吐く一さくさく酒のさくさ
さのよりの酒とくさくはさして
さくさく一さくさくみれり
さくのよりの酒とくさく

政もあつて酒もあつて酒の
酒の酒もあつて酒もあつて
酒もあつて酒もあつて
酒もあつて酒もあつて

酒もあつて酒もあつて酒の
酒の酒もあつて酒もあつて

酒もあつて酒もあつて酒の
酒の酒もあつて酒もあつて

酒もあつて酒もあつて酒の
酒の酒もあつて酒もあつて

大岡亭記

山林一り酒もあつて酒の
酒の酒もあつて酒もあつて

きま〜む〜ら〜お〜さ〜じ〜
さ〜れ〜大〜心〜は〜この〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜
小〜心〜は〜この〜ま〜る〜ま〜る〜ま〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
小〜心〜は〜この〜ま〜る〜ま〜る〜ま〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
南〜に〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
夕〜れ〜の〜月〜も〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
西〜り〜な〜こ〜の〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
の〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜

あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
お〜り〜な〜こ〜の〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
い〜ら〜な〜こ〜の〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜
あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜

あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜あ〜る〜

ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
用ひてさかきしむるに
りてさかきしむるに
床よき鶴のついで
ちかちかおのりてくまのまはらに

ちかちか

又ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに

七ツ

ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに

おのりて

ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに
ちかちかおのりてくまのまはらに

ちかちかおのりてくまのまはらに

~~~~~に数々の燈を  
地ヶさ

たのみの数々を山燈籠

たのみの山燈籠を金剛院

有る言を今免の時 如通

たる物思

身に世をよんはうに縁の思 如通

自新事さうおさふと縁の思 如通

孫多小露一筋のきさけ 如通

### 中流八景

幸望亭時光

あまのや幸望亭と八景のむ 松後

丸山夕照

夕光や丸山の光のけつを 如通

稻佐善吉

あまのく人さうまのけつを 如通

浦上流の序

海上や猶たなごんけりて流る序 ぬ川

大浦岸の序

星とあふ海のほとりやゆらふ序 ぬ道

白雲と流る序

そらとくく 雲と流る序の序 流

出雲の序

ひびくよりの序の序や流る序 ぬ海

梅の序の序

梅の序とよきくく流る序の序 堂園

ぬ道を人の流る序の序

流る序の序や月の序 ウハコソヒ

流る序の序 ぬ道

ぬつれの序の序の序の序

ぬつれの序の序の序の序 ぬ道

よみあはれしうらなひのこころを  
藤子

孫の孫にたれおとす  
おとす

葉の葉はふりかへりて  
かへり

こころのまへに  
まへ

唐のうらなひのこころを  
うらなひ

一葉のまへに  
まへ

よみあはれしうらなひのこころを  
うらなひ

おとすのこころを  
おとす

葉のまへに  
まへ

おとすのこころを  
おとす

葉のまへに  
まへ

おとすのこころを  
おとす

葉のまへに  
まへ

おとすのこころを  
おとす

葉のまへに  
まへ

おとすのこころを  
おとす

後月も世松の今八早

高川

さし此のゆふ廊すのぬき

渡友

あのみすよのきよし訓

あとの者

あみ

あそをれなるありのそ

あそ

あそあゆまのゆきし

あそ

あそあゆまのゆきし

あそ

あそあ

あそあ

あそあ

あそあゆまのゆきし

あそあ

あそあゆまのゆきし

あそあ

あそあゆまのゆきし

あそあ

あそあ

あそあ

あそあゆまのゆきし

あそあゆまのゆきし

あそあ

あそあゆまのゆきし

あそあ

あそあ

賜や〜集や表野のあつらひ  
 大内は徳とま〜一をさす  
 事だに井さの申色にふか  
 か〜もやさのふ〜七葉のふ  
 あ〜たれぬ申のふあ〜と〜  
 政事人や指のふも〜  
 折〜物〜あ〜あ〜あ〜  
 政を〜あ〜あ〜あ〜

藤千  
 表野  
 如野  
 當國  
 ふ野  
 表流  
 表事  
 表野

海見やぬた〜に臨席  
 おぼらおや様〜と〜  
 七々の思ひ〜と〜  
 ぬき方に神とぬ〜  
 立探り職仕〜と〜  
 六月えり〜と〜  
 あ〜と〜と〜  
 今〜と〜と〜

如一  
 金庵  
 表  
 ぬい  
 希古  
 志斗  
 毛友  
 表

入念入くかーいまのんをさあま  
 美のなれさるらぬさや何さ  
 心もあつたんぐんささう初鑑  
 さあ今も挿ささうて改うぬ  
 心とあつてさあ指ささうて改うぬ  
 相の子心縁ほさるやあのお  
 心あつたのさういまのけささ  
 り後果のり改ささうて改うぬ

漢古  
 八椿  
 魯川  
 友強  
 友友  
 如川

ああ風よ流れてさあいまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの  
 心とあつたのさういまの

あまの心をいかにさあいまの



姦婦

い経初やゆさありのこゝろ

ひまふる心

神あふ心

ささめ入る

輝れやきよひれする屋敷の

初乾や神あふ心のむすまへ

物とひるふおのころあひさるぬ

あひの  
まきぬ

田代

ぬけにさうにやとあり

松後

竹のきや秋もあつくと強なる

こころぬれとて人のこころのこころ

有る

あつてを人とあつてをいひて

有る

ゆきまにゆきひあつてあつてのぬ

あつてのこころはすあつてのあつ

松後

大からぬ松あつてあつてのあつ

あつ

ハ白書

第幾

出格子にうらやましむ所

まの世にまゐるのおん体

あゝあゝと顔に涙の流

おの体よのよせぬ袖

河増よおのまをれ宮に

あゝあゝと胸のさけり

はさすほろとあまの川

五

松後

し文

杜川

百歌

了書

席切

はひりしひ掃人といふ

燈人

花

よ代の松  
せいの松

こゝろにうらやましむ所

あゝあゝと顔に涙の流

おの体よのよせぬ袖

箱笥八橋

はさすほろとあまの川

席切

三

三

Handwritten cursive text at the top of the right page.

Main body of handwritten cursive text on the right page.

Handwritten text at the top of the left page, including the characters 'あれ' and '中'.

Main body of handwritten cursive text on the left page.

度田

文推

秋涼度田北里の宿する

露の重なる朝の暁の月 文推

一白書

文推

露の重なる朝の暁の月

日待てる宿の暁の月 松原

二井も(女)宿の暁の月 文推

露の重なる朝の暁の月 芳原

あつた宿の暁の暁の月 芳原

鈴の宿の暁の暁の月 芳原

あつた宿の暁の暁の月 芳原

あつた宿の暁の暁の月 芳原

文推

あつた宿の暁の暁の月 芳原

あつた宿の暁の暁の月 芳原

右室房奉納

為と鐘も月より物もなや

おのゝり

あまの人の器もなやあて

平水音のなやあて月

月さへて後らよまじ 松後

上書

あまの人の器もなやあて

あまの人の器もなやあて

いさ

免澄

あまの人の器もなやあて

鐘もあててあまの器もなや 松後

あまの人の器もなやあて 夏

飯沼

あまの人の器もなやあて

あまの人の器もなやあて

あまの人の器もなやあて

あまの人の器もなやあて 松後

後ハコノCommençement de l'Église

の一章一節一書

その後の歴史一様記す可也

その後の歴史一様記す可也 後

二の書

後

後ハコノCommençement de l'Église

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也

二の書

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

その後の歴史一様記す可也 後

ちんちんてきんもかきしん 依字

たのびくはくはくはくはくはく 金丁

いひひひひひひひひひひひひ ちんちん

あつちんちんちんちんちんちん ちんちん

あつちんちんちんちんちんちん ちんちん

